

地唄舞とは

日本の古典舞踊には「舞」と「踊り」の二種類があります。三味線音楽である地唄に合わせて舞うものを「地唄舞」といいます。舞の特徴は、少ない動きと抑制した間でその歌詞にこめられた「こころ」を表現するところにあります。

渡邊守章

フランス芸術文化勲章、国家功労賞オフィシエ受章。二〇〇六年、クロード・ラン・バルト『ラシーヌ論』の翻訳で読売文学賞を受賞。フランスの哲学者ミシェル・フーコーの日本への紹介に大きく寄与。クロード・ジャン・ラシーヌなどのフランス演劇が専門、能楽など日本演劇にも造詣が深く、一九七〇年には観世寿夫らと「冥の会」を結成し演劇活動を行い、一九七九年より演劇集団円の演出家として活躍。ラシーヌの『フェードル』を能様式で演出、フランスでも上演した。ほかに『能ジャンクシオン・葵上』のような実験的な能や、クロード・コクトーのほか、多くの近代演劇の上演を行い、一九九六年から演劇制作「空中庭園」に拠って演出活動を行う。演劇企画『空中庭園』主宰。

渡辺 保

一九三六年東京生まれ。慶応義塾大学経済学部卒業後、東宝演劇部企画室を経て、演劇評論家へ。『女形の運命』で芸術選奨文部大臣新人賞、『忠臣蔵』で平林たい子文学賞と河竹賞、『娘道成寺』で読売文学賞、『昭和の名人豊竹山城少掾』で吉田秀和賞、『四代目市川団十郎』で芸術選奨文部大臣賞、『黙阿弥の明治維新』で読売文学賞を受賞。二〇〇〇年紫綬褒章受賞。二〇〇九年旭日小綬章受賞。二〇一七年日本芸術院賞・恩賜賞受賞。著書に『歌舞伎手帖』『女形とは名女形雀右衛門』『歌舞伎型の真髄』『身体は幻』など多数。

神崎えん

地唄舞神崎流四世家元。父三世宗家秀珠の膝下にて二世宗家神崎ひでにも薫陶を受け、一九八一年より毎年「霧の会」の公演を主催する。一九八三年より武原はん師にも指導を受ける等、地唄舞一筋に打ち込み、十九九九年舞踊批評家協会賞新人賞受賞、同年、四世家元を襲名。同時に「神崎流地唄舞研究会」を第五十回より引き継ぐ。二〇二二年パリ日本文化会館公演。紀尾井ホール主催公演、国立劇場主催「舞の会」等各種公演に出演。二〇二四年より「地唄舞研究会」を渡辺保氏協力のもと開催するなど東京の地唄舞の啓蒙普及に努める。

協力

鹿島建設株式会社

会場

港区赤坂6-5-30

鹿島KIビル 地下1階 大会議室

東京メトロ千代田線赤坂駅5b出口より徒歩2分



次回平成三十年第十五回地唄舞研究会
 一月十日(水)午後二時 開始予定
 第一部 講演「檜垣について」 羽田 昶
 第二部 舞「黒髪」西川千穂 「未定」神崎えん

FAX 申込用紙

FAX宛先 03-3405-7190 (9時~18時)

本用紙でお申し込みのお客様は、当日会場に本紙をご持参ください。満席になりました場合は、ご連絡申し上げます。

お名前(フリガナ)

日中ご連絡のつくお電話番号とメールアドレス